

# Internet Gatekeeper (IGK) と Linux Security を同一サーバ上に構築するときの注意点

Internet Gatekeeper (IGK) と Linux Security を同一サーバ上に構築する事は可能です。しかしながら、複数のセキュリティ製品を稼働させる事になりますので、Linux Security にて IGK が利用するディレクトリをスキャン除外いただく必要がございます。下記「スキャン除外必須領域」を除外していない場合、IGK のサービス再起動時、および OS 再起動時に IGK のプロキシプロセスの起動に失敗致します。

IGK のプロセス起動時には、内部動作にて /var/tmp/fsigk/ 配下に eicar ファイルを一時的に作成し動作チェックを行っております。このファイルが作成された時に Linux Security のリアルタイムスキャンやマニュアルスキャン等で検知されてしまうと、IGK 側で動作チェックが正常に行なうことができずにプロキシプロセスの起動に失敗致します。

## [スキャン除外必須領域]

- ・ /var/tmp/fsigk : IGK がスキャン時に利用する一時展開ディレクトリ

※上記ディレクトリは IGK の設定にて任意のパスに変更することが可能です。デフォルト設定から変更している場合は、変更後のパスをスキャン除外いただく必要がございます。

## [スキャン除外推奨領域]

- ・ /var/tmp/quarantine : IGK が利用するウィルス隔離保存ディレクトリ
- ・ /opt/f-seucre/fsigk : IGK のインストール領域